

国語教育相談室

中学校
no.
60

光村図書



特集 メディアの読み解きと表現

巻頭 エッセイ
桂 歌丸
しゃべり上手は聞き上手

教師力講座
「作文」ではなく「書くこと」の
力をつけるという発想で

教材の経
古典和歌教材化の可能性

書写
おさえたい
こと三題
ほか

光村ライブラリー◎中学校編 全5巻

名作に出会う、 しあわせ。



光村ライブラリー中学校編は、昭和30年から平成14年までの国語の教科書に掲載された名作教材71を集めたものです。
読みたかった作品、読ませたい作品に出会えます。



「サーカスの馬」「繁栄の花」「最後の一句」
「フシダカバチの秘密」「朝のリレー」などの名作を収録。

光村ライブラリー中学校編 全5巻
セット定価 **5,250**円(本体5,000円) 各巻定価 **1,050**円(本体1,000円)
A5判上製 各巻平均120ページ セットISBN 978-4-89528-374-8
※セットでお買い上げの場合は、化粧ケース入り。

光村図書 中学校 国語教育相談室 通巻No.130 2010(平成22)年1月18日発行 定価126円(税込)
発行人=常田 寛 発行所=光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所=村田印刷工業株式会社 デザイン=mint grafix

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

サザエさんのなぞ

京都教育大学教授
森山卓郎

国民的漫画の「サザエさん」。実は、サザエさんには言葉の謎があるのだ。どんな謎かって？。では、ちょっとおつきあいで下してみせ。

日本語にはアクセントがあって、語のましまりによって、音の高低が決まっている。共通語で言えば、「あめ」「あめ(雨)」「あめ(飴)のようになぞが違う(太字は高い音を表す)。

おもじるいことごとく、いっつかの語の「形」では、このアクセントに決まりができている。共通語では、例えば、「さいたい」という形にすると、どんな動詞でも「○○+た」まづが高くて、「う」が下がる。例えば、「走る」「飲む」「死ぬ」は、「は」「る」「む」「ぬ」のよ

が違ふ。ところが、これらに「たい」「を」をつけて発音すると、「はじりたい」「みたい」「したい」のように、みんな下がりは「た」の後だ。

人の名前でもこんなルールがある。例えば「音の名だ」と

かな、くみ、ゆき、うた、ゆか
のように、最初の音が高くて次の音が低い。共通語では、季節の「夏」は「な」が低くて「つ」が高く、「なつ」となる。が、人の名前として発音すると「な」が高くて「つ」が低く、「なつ」となる。磯野家の「フネ」さん(サザエさんのお母さん)も、このルールに当てはまる。最初の音の「フ」が高くて、「ネ」が低い。

そこで、「サザエさん」。実は、「〇

〇枝」「〇〇江」などのお名前では、最初の音だけ低くて、後は高いまま続くというルールがある。つまり下がりはないのだ。

ゆきえ、まさえ、はるえ、……
など、平板になって高く続くのだ。

ところが、「サザエさん」は違う。「〇〇え」という名前なのに、最初の音だけが高い。「さざえ」という発音なのである。これでは貝の、あの「宋螺」と同じアクセントである。

サザエさんの場合は、「〇〇え」という名前のように見えていても、人名についてのアクセントのルールが当てはまらない。うーむ……ねえ、サザエさん、うっしてあなたは「さざえ」さん？

CONTENTS

- 探検! 言葉の森9 サザエさんのなぞ _____ 森山卓郎
- 巻頭エッセイ
言葉と向き合う 02 しゃべり上手は聞き上手 _____ 桂 歌丸
- 特集 04 **メディアの読み解きと表現**
広告会社を作って、学校PRポスターを
プレゼンテーションしよう _____ 宗我部義則
- 教師力講座8 14 「作文」ではなく「書くこと」の
力をつけるという発想で _____ 甲斐利恵子
- 教材の径8 18 古典和歌教材化の可能性 _____ 松野洋人
- これからの
書写指導6 20 おさえておきたいこと三題 _____ 住川英明
- 新しい書写実践
の試み12 22 学習意欲を高める毛筆指導 _____ 本田由人

しゃべり上手は 聞き上手

落語家 桂 歌丸

昭和二十六年の入門から半世紀以上、
噺家をやつてきて思いますが、言葉で
相手を怒らせたり泣かせたりすることは
簡単ですが、笑わせるということ、つま
り相手の心を引き寄せる話し方というの
はとても難しいことです。何が難
しいかといえば、まず「間」の取り方
でしょうね。登場人物がしゃべる一つ一
つの言葉の「間」、それから、登場人物ど
うしの会話の「間」です。

落語というものはまさに「間」がもの
をいう芸。聴く側のお客様にとってはそ
れが大きな魅力であり、われわれしゃべ
るほうにとつては、自分なりの「間」を
つかままでが大変なところですよ。「間」
が悪いと、どんなに筋が面白い噺でもお
客様に笑っていただけません。ところが、
「間」がいいと、ちよつとしたことでも
どつとつける。不思議なものです。

わたくしたち噺家は、まず弟子入りし

いちばんの勉強法は人の話をよく聞くこ
と、つまり「聞き上手」になることじゃ
ないかと思っています。よく「しゃべり
上手」ということをいいますけれど、わ
たしはそうじゃないと思います。「聞き
上手」というのがもとにあるんです。人
の話を聞くのがうまい人は、しゃべらせ
ても大変うまい。相槌を打つたり、うな
ずいたりしながら、相手に気持ちよく
しゃべらせる「間」をとれるんですね。
これはわたしたち噺家がよくやる稽古
ですけど、テレビやラジオのニュース
を聞きながら相槌を打つんです。アナウ
ンサーがニュースや天気予報を話してい
るとき、画面に向かって「ああ、そうで
すか」「わかりました」なんてね。たつ
た一言二言ですけど、相手の話に合わ
せながら間をとることが自然に身につい
てくるんです。わたしも昔はずいぶんや
りましたよ。

て師匠に口伝えで噺を教わるところから
始まります。最初のうちは師匠の口まね
ですから、「間」も師匠のとおりの「間」
なんです。それが生涯そのままでの「間」
じゃないんです。やがては、自分に
合った「間」をこしらえなくつちやいけ
ません。

今、うちの弟子をはじめ、よそのお弟
子さんもわたしのところに稽古に来るん
ですが、わたしは噺を教えることはで
きなんですけど、「間」を教えることは
できないんですよ。人によって全部違
いますから。明らかに間違つた「間」なら
「そこは、一呼吸おきなさい」とか、「そ

落語というものが、減びもせず延々と
続いてきたのは、こうした話し方の工夫
をたえず磨いてきたことがひとつ。それ
に加えて、常に言葉づかいの工夫をして
きたことも大きいでしょうね。

われわれ東京の落語家は、江戸の言葉
でしゃべります。古典落語は、その当時
のままの言葉を使つてこそ味わいがあり
ますから。しかし、時代とともに言葉が
わかりにくくなつてくれば、現代風に改

こは間をおいちゃだめだ。すつと一気に
しゃべりなさい」などとアドバイスはで
きますけれども、その人に合った「間」、
つまり本当の「間」というものはちよつ
と教えられないですね。

たとえば昭和の名人といわれた古今亭
志ん生師匠(※)の「間」はとても面
白いけれど、わたしたちがまねしてやっ
てもお客様は絶対笑わない。あれは志ん
生師匠の「間」なんです。「間」によつ
て噺が面白くもなり、つまらなくもなり、
噺がうまくもなり、下手にもなるんです。
人を笑わせたり、こちらの話をちゃんと
聞いてもらえるための「間」というのは、
一朝一夕に身につくものではありません。
ですから、これは噺家ばかりに伝えるこ
とではないんですけど、自分の「間」
を早くこしらえた人が勝ちになるん
ですよ。

じゃあどうすれば身に付くかといえば、

めてもいます。カットできる言葉ならス
パッと切り捨てる。どうしても使わな
ければいけないときは、噺の中でそれとなく説
明する工夫をします。

変えることも、変えないこともどちら
も大事。先人たちによるそうした努力に
よつて、芸が伝承され、言葉が伝承され、
落語は「笑い」や「人情」を長い間伝
えてきたのです。

落語には味わいのある日本語や、今も
通じる義理人情の道理というものが残つ
ています。間の取り方の勉強もできます。
落語こそが日本語の教科書です…とまで
は申しませんが、ぜひ寄席や落語会にお
いでいただいて、大いに笑ってください。

(談)

※古今亭志ん生(五代目)一八九〇年〜一九七三 軽妙洒
脱、天衣無縫の芸風で人気を博した。

桂 歌丸

1936年、神奈川県横浜生まれ。
落語家。社団法人落語芸術協会会長。
51年、五代目古今亭今輔に入門のち、
四代目桂米丸門下に移る。68年、真打
昇進。
94年から三遊亭圓朝作の長編人情噺に
取り組むなど、人気・実力ともに当代随
一の名手として知られる。
89年、芸術祭賞、2005年、芸術選奨
文部科学大臣賞ほか受賞多数。
著書に『極上 歌丸ばなし』(うなぎ書房)
など。



特集

メディアの 読み解きと表現

広告会社を作って、学校PRポスターをプレゼンテーションしよう

現代社会では、メディアを読み解き、活用する能力が必要とされています。この特集では、的確で効果的な表現の方法をポスターというメディアの読み解きと制作を通じて学び、さらに、相手のニーズに合わせた表現、プレゼンテーションの学習から、実社会で求められる言語能力の育成を目指す実践を取り上げました。

単元の趣旨

実社会で活きる言葉の力を

お茶の水女子大学附属中学校教諭
宗我部 義則

今、実社会に活かし働かせることができ
る言葉の力の育成が求められている。
自分がこの場で相手とかかわるのは何の
ためか、何を達成しようとしているのか(目

的)。そこで自分は何を伝えたいのか、何
を知りたいのか(内容)。そして目の前の
相手は何を知りたがっており、何を伝えたい
がっているのか(相手)。これらをつない

で目標(例えば合意の形成)を達していく
のが話し言葉のコミュニケーションだ。そ
して話し言葉のコミュニケーションは常に
現場で展開されるから、入念に推敲して書

き直したり後からじっくり読み直したりす
るわけにはいかない。いつもその場その場
で、これらを見渡して判断し、さらに話し
合いを進めて行かなくてはならない。話す
力・聞く力の基礎・基本が、そうした形で
実生活や実社会の場で活用されるようにな
ることこそが今、求められていると考える。

商品広告のポスターを学習材に取り上
げ、その表現の工夫を読み解き、それをモ
デルにして写真と言葉を組み合わせてポス
ターを制作する学習を展開した。その際、
学習グループを広告会社に見立て、クライ
アント(学校)の依頼を受けて学校PRポ
スターを制作し、コンペティションでプレ
ゼンテーションを行って自社作品をアピ
ルするという、社会で実際に行われている
一連の展開を擬似的に取り入れた。

ストの読解を意識した言語活動であり、ま
た制作をめぐる企画会議は合意形成を目指
すスタイルの話し合いとし、さらにプレゼ
ンテーションは単に作品紹介ではなく、聴
衆の説得を意識させるよう展開した。配当
時数は六時間とし、プレゼン指導について
は総合の時間ではなく、国語科の授業時間
を積極的に提供して実施した。
以下、まず単元の展開を具体的に示し、
その上で、プレゼンテーション
指導のポイントを述べてみたい。

さて、これまでの発表・説明などの学習
は、「自分が言いたいことをいかに的確・
効果的に相手に伝えるか」というところに
指導の重点があったと言えよう。そういう
学習の場では「言いたいことを理解しても
らうこと」自体が対話の目的になる。しか
し実生活の場の目的は、言いたいことが理
解されることのもうひとつ先にあることが
少なくない。たとえば自分のアイデアを理
解してもらい、それを相手に採用してもら
うために話すというように。そして、自分
のアイデアをいかに効果的に伝えても、相
手のニーズに合わなければ採用してもらえ
ない、ということもまたよくあることだ。
話す力・聞く力を実生活で活きる力にして

本実践では、ポスターの読み解き、制作
の部分は主に美術科や家庭科の学習の要素
を含みつつ総合的な学習の扱いとし、企画
会議やプレゼンテーションの部分を国語の
学習として扱った。全体としては、総合的
な学習におけるメディア教育の入り口とし
ての意味づけを重視した単元設計になっ
ている。

いくためには、相手とのかかわりをより重
視した学習を工夫していくことが大切にな
ろう。

ただし、本単元は私が一貫して立案し、
指導展開しており、単元開発に当たっては
「つなぐ科」の開発終了後は国語科の学習
活動として実施できることを意識した。す
なわち、ポスターの読み解きは非連続テキ

今回掲載した実践は、「メディアと表現
の意図(ポスターでPR)」として以前私

なわち、ポスターの読み解きは非連続テキ



宗我部 義則

お茶の水女子大学附属中学校教諭。
お茶の水女子大学非常勤講師。国立
教育政策研究所「教育課程実施状況
調査問題(中学校国語)」作成および
分析委員。平成20年告示中学校学
習指導要領解説国語編作成協力者。
編著書に「群読の発表指導細案」
(明治図書)、「夢中・熱中・集
中…そして感動 柏市立中
原小学校の挑戦!授業リ
フレクションで校内研を
変える」(東洋館出版社)、
共著に「読解力再考 す
べての子どもに読む喜
びを-PISAの前にあるこ
と」(同)など。

単元の目標

- ①商品広告ポスターについて、その意図や表現の工夫を読み解くことができる。
- ②実際の商品広告ポスターの表現をモデルにして、学校をPRするポスターを表現効果を考えながら制作することができる。
- ③制作したポスターについて、意図や効果を分かりやすく説明することができる。



▶生徒たちが実際に作ったポスター

学習指導計画 (全6時間)

- ① 学習のガイダンス。商品広告ポスターについて、意図や工夫を読み解く。(1時間)
 - ①「メディア」という言葉について知っていることを話し合う。
 - ②学習を行うグループ(広告会社)を結成し、学習の見通しを立てる。
 - ③実際の商品PRポスターについて分析し、ポスターの工夫を見つける。
- ② 学校PRポスターのコンセプトや伝えたいメッセージを考える。(1時間)
 - ①前時に見つけたポスター表現の工夫を発表し合い、気づきをまとめる。
 - ②ポスター制作の依頼と、ブレインストーミング
- ③ 企画案を練り上げ、ポスターの下絵を完成する。(1時間)
 - ①ポスター制作の流れを押さえる。
 - ②持ち寄ったサムネイル(作品イメージ)を見せ合って企画案を練る。
 - ③ポスターの下絵を完成させる。
- ④ パソコンを活用してポスター制作を行う。(1時間)
- ⑤ プレゼンテーションの準備をする。(1時間)
 - ①ポイント指導
 - ②プレゼンテーションのための台本作り
- ⑥ ポスター作品を発表・相互批評し、学習を振り返る。(1時間)
 - ①発表や相互批評のやり方を確かめる。
 - ②ポスター・コンペを開く。
 - ③相互批評し講評を聞く。

各時の学習展開

第1時 学習のガイダンス。商品広告ポスターについて、意図や工夫を読み解く。

展開	単元の導入
<p>○「メディア」について考える。</p> <p>①「メディア」って何だろう。</p> <p>②上手なつきあい方を考えていこう。</p> <p>○単元展開の説明を聞き、見通しを持つ。</p> <p>○広告会社を設立しよう。</p> <p>・四名前後で会社(グループ)を作る。</p> <p>・会社名を考える。</p> <p>○商品PRポスターについて、ポスター表現の工夫や意図を読み解く。</p> <p>①サンプルとして、プリンターのポスターを全体で読む。</p> <p>②課題の商品ポスターをグループで読み解く。</p> <p>A ベットボトル入り緑茶</p> <p>B 高齢者向け携帯電話</p> <p>C インクジェットプリンター</p> <p>D デジタルカメラ</p>	<p>主な学習活動</p> <p>・単元名の「メディア」という言葉に対するレイダネスをつかむ。</p> <p>・適切なつきあい方を考えながら以後の学習を進めていく構えを持たせる。</p> <p>・人数は一社四名を基準とし、三名以上六名以下とした。六名を上限としたのは、学習に参加する密度を高めるためである。</p> <p>・最初に①では、教師がリードして、①ポスターの構成要素</p> <p>②読み解きのポイント</p> <p>③では①の学習を生かして、さっそう自分たちで読み解いてみる。(ワークシート①P.8参照)</p>
<p>指導上の留意点</p> <p>・単元名の「メディア」という言葉に対するレイダネスをつかむ。</p> <p>・適切なつきあい方を考えながら以後の学習を進めていく構えを持たせる。</p> <p>・人数は一社四名を基準とし、三名以上六名以下とした。六名を上限としたのは、学習に参加する密度を高めるためである。</p> <p>・最初に①では、教師がリードして、①ポスターの構成要素</p> <p>②読み解きのポイント</p> <p>③では①の学習を生かして、さっそう自分たちで読み解いてみる。(ワークシート①P.8参照)</p>	<p>また、ポスターの読み解きには、「非連続テキストの読解」「消費者としての商品広告の見方」などに関する学習経験が組み込まれていると言えよう。</p> <p>▼「メディア」について押さえておくこと</p> <p>「メディア」とは情報を伝達する媒(なかま)であり、テレビ、新聞等のいわゆるマスメディア、インターネットや携帯電話などもすべて</p>

第1時のポイント

第1時は単元の見通しをもたせ、実際のポスターを読み解いてポスター表現について学んでいくことがねらいになる。ポスターなど、どの表現にも「伝えたい内容」とそれを「効果的に伝えるための形式・工夫」があり、それを読み解くことを通して、自分たちの表現への種まきをしていくのである。

第3時

企画案を練り上げ、ポスターの下絵を完成する。

主な学習活動

- ポスター制作の流れを押さえる。
- ・一般的な制作過程
- ・人目を引きつけるためのポイント
- 持ち寄ったサムネイルを見せ合って、会社グループ)としてのポスターの企画案を練る。
- ・何を伝えるために
- ・どんな写真や言葉を使うか
- ・どう表現するか
- ポスターの下絵を完成させる。

指導上の留意点

- ・宿題としておいたサムネイルの一部を書画カメラで撮影して紹介し、アイデアの良さやさらに工夫する視点など助言する。
- ・会社ごとに企画案を練り上げる。
- ・コンセプトを明確にすること、キヤッチコピーのアイデアを練り上げることを指示する。

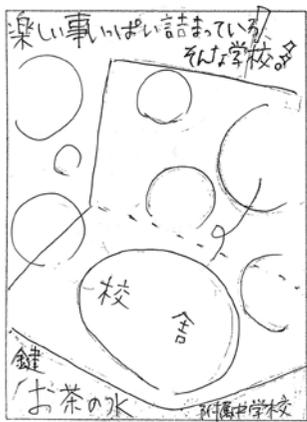
お茶中PRポスター企画・サムネイル

提案者

- ※何を伝える(表す)ために
- ・どんな写真や言葉を使うか。
- ・どう表現するか。
- そういう「意図」を説明できるように、メモしておこう!



- ・扉の向こうから光が差し込んでいる
- ・同じには山の手が繋がっている
- ・真鍮は光らせる
- ・ねて見つけた!と言った本本になつ
- ・女の子の頬は赤みをいれお茶の水をいれ出す。
- ・女の子の手にもつと黒いかけの言葉を!
- ・バツ(背景)は黒(お茶の水)にする
- ・光(金・銀)が月立つ。★トコを張る



- ・箱のお茶の水が形を出す
- ・箱を光らせる
- ・板金を真ん中に張る。
- ・もつとのお茶の水には、お茶の水生活健康体育大会、合唱祭 etc... すべて相談する。
- ・背景は白
- ・鍵をあけたと言葉を描く。
- ・写真を合成させる。写真で必要なものは、板金、箱、鍵(人の手)、これの中にいれる写真
- ★トコを張る。

▲ワークシート③

第4時

パソコンを活用してポスター制作を行い、プレゼンテーションの準備をする。

主な学習活動

- ノート型パソコンとプレゼンテーションソフトを使ってポスターを制作
- ・役割を分担して進める。
- ・パソコンの特徴であるやり直しの自由を生かし、色を変えて試したり、それぞれの要素を配置を工夫したりする。
- ポスターができたら、プレゼンテーションの準備をする。
- ・ポスターのコンセプトを改めてまとめる。
- ・表現の工夫のポイントや、自分たちの作品のPRポイントをまとめる。
- その他、プレゼンテーションを効果的にするためのアイデアを出し合う。

指導上の留意点

- ・時間短縮のため、学校の風景や行事を撮った写真を二〜三ポイント用意しておき、その中から自由に選ばせたり、ソフトに付属の画像も使わせたりした。作業中は表現の意図を尋ねたり、見た印象を伝えたりして、机間指導する。
- ・説得のポイントを考えさせる。
- ▼何が求められているか(説得相手の再検討)
- ▼何を強調して伝えるか(伝える内容の確認)
- ▼どう伝えると効果的か(伝え方の工夫)

第4・5時のポイント

【第4時】第3時に書いた下絵をもとにパソコンでポスターを制作する。手書きで書いたイメージ通りには制作できないので、コンセプトを確かめつつ、その場で微修正を加えながら作っていくことになる。パソコンはグループで一台。操作担当を囲んで周りで意見を出し合う形とした。

【第5時】プレゼンテーションの台本を作る。ポスター制作が終わっていないグループは分担して取り組む。ポスターの説明とともに、どうしたらポスターが採用されるか判断のポイントを考えるように促した。

パソコン使用上の注意

本実践では二つの工夫をした。一つはグループ一台としたことだ。操作担当を囲んで意見を出し合う協働の場を作り出すことになり、かつ得意な生徒が操作するので時間短縮になる。パソコン活用は一人一台にこだわる必要はなく、担当者を囲んで生まれる対話こそが学習効果を高める。もう一つはプレゼンソフトで制作させた

第3時のポイント

一般的な広告代理店の仕事の流れを解説し、作業の進め方について知らせる。

○依頼は単独で受ける場合もあれば、公募されて数社で競争する場合もある。今回の学習は、各グループによるコンペであることを示しておく。

○まずクライアントの依頼内容を徹底的に分析する。中心になるコンセプトが固まったら、それぞれの担当に分かれてアイデアを持ち寄る。このとき大切なのは他の人のアイデアを大切にすること。自由にアイデアを出せるような雰囲気も大切。

○メディアによって、たとえばポスターか新聞広告かによって、作り方が違う。新聞広告は「読む」もの。多くの情報量を提供できる。今回依頼されたポスターは、ぱっと見て印象に残り、かつ、見て生まれるイメージが商品などのイメージや言いたいことと合っていることが大切だということをもう一度押さえておく。

※宿題のサムネイルのいくつかを書画カメラで撮影して全体に示しながら、そのアイデアの良さをほめるとともに、「キヤッチコピー」と絵(写真等)がずばっと一致した方が印象に残る」など、構成上の助言を与えた。



ことだ。レイアウトが比較的自由だが、必要以上に手の込んだ制作はできない。機能に凝りすぎて時間をかけてしまうと、創作には有効でも、学習成果が高まるとは限らない。また、パソコンを使用した制作についてここでは詳述しないが、各校の実態に応じた運用を心がけたい。

ポスター作品をプレゼンテーション、相互批評し、学習を振り返る。

主な学習活動

指導上の留意点

<p>○発表や相互批評のやり方を確かめる。</p> <p>○ポスター・コンペを開く。</p> <p>・制作意図の説明</p> <p>・相互批評</p> <p>○講評を聞く。</p> <p>○学習を通じた気づきや感想をまとめ</p>	<p>○映像と言葉による構成の意図を、制作のコンセプトや伝えたい内容との関係を明らかにしながら説明する。</p> <p>・学習した視点の活用</p> <p>・生活場面への応用を視点として。</p>
---	--

第6時のポイント

本気の言語活動を引き出すことが、言語学習の効果をより高めていくと考えている。そこで、本実践では、校長・教頭にポスターの審査役をお願いした。プレゼンテーションを聞いて、先生方がそれぞれの作品を評価するのである。

ポスターは予めすべて掲示して並べた。

二分間の持ち時間を最大限有効に使ってプレゼンテーションを行う。司会進行役も生徒に割り当て、主体的なコンペの場を意図した。

生徒たちの発表の様子

それぞれコンセプトと表現の仕方でも工夫した点を明確にするように助言した。各グループのプレゼンテーション後、フロアの生徒から表現の意図と実際の表し方について質疑応答をした。

▼ワークシート④

お茶中PRポスター プレゼンテーション1

社名 (代表) 氏名

- 最終回の学習の流れ
1. 制作したポスターについて各社が順番にPR発表します。(2分×9)
 2. 相互に優秀作品を推薦しあってコメントしあいます。(10分)
 3. 先生が講評します。(10分)
 4. これまでの学習を振り返って、気づいたり感じたりしたことをまとめます。(5分)

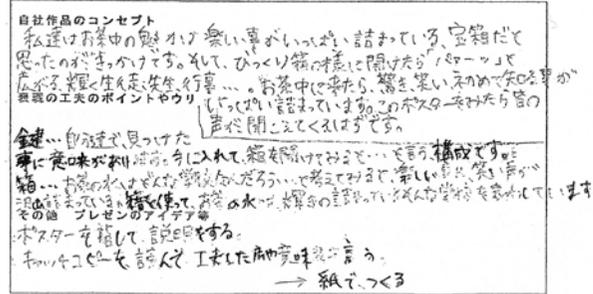
プレゼンテーションの準備をしよう

○実際の広告会社でも、同じ条件で自社のアイデアや制作意図などをプレゼンして、採用してもらえるように訴えます。数社が競うことが多いので、コンペティション(コンペ)と呼ぶことが多いようです。その準備をしましょう。

【条件】 □持ち時間…2分厳守
□方 法…ポスター作品を見せながらの、プレゼンテーション

【準備をしよう】

- 必ず入れること
- ①社名
 - ②コンセプト…表現したいお茶中の魅力はこういうところだと考えた。こんな写真やこんなことばでそれを伝えたいと考えた。
- 発表に入れると良さそうなこと
- ①表現の工夫……写真やことばの説明
どんな工夫をしたのか
 - ②このポスターのウリ! ※チームごとにいろいろ工夫してやろう!



お茶中PRポスター プレゼンテーション2

社名 (代表) 氏名

発表原稿	発表の工夫や分担など
<p>これから我が社のPR発表を始めます。</p> <p>我が社は、受験生やその親をターゲットにしてポスターを作りました。</p> <p>我が社が考えたお茶中の表し方は、新しい事がいっぱい詰まっています。空箱だと思ったり、お茶中をイメージして、お茶中に来たら驚きや楽しみを感じてほしいという思いで、このポスターを作りました。お茶中に来たら、お茶中をイメージして、お茶中に来たら驚きや楽しみを感じてほしいという思いで、このポスターを作りました。</p> <p>お茶中に来たら、お茶中をイメージして、お茶中に来たら驚きや楽しみを感じてほしいという思いで、このポスターを作りました。</p>	<p>このポスターの視点は、子供の目線で考えました。お茶中が、お茶中をイメージして、お茶中に来たら驚きや楽しみを感じてほしいという思いで、このポスターを作りました。</p>

◀ワークシート⑤

プレゼンテーション指導で大切なこと

目的と目標をはっきりさせる

プレゼンテーションには目的がある。たとえばプリブル・チャールズ(※)はプレゼンテーションの目的に着目して、「情報提示型」「説明型」「提案・説得型」の三つのスタイルに整理している。

本実践のプレゼンテーションでは、生徒たちにとって二つの「目的」が重なって意識されることになる。「①自分たちのポスターの制作意図や表現の工夫を説明し、理解してもらうこと」と、「②学校PRポスターとして自分たちの作品を選択(採用)してもらうこと」である。

従来の発表型プレゼンテーションでは、①が達成されればよかった。しかし、説得型のプレゼンテーションでは、その上で自説(自分たちの作品)を選択・採用してもらうこと(②)が重要になる。

説得型のプレゼンテーションを学習活動とする場合、生徒たちにとって①は意識されやすい。自分たちが伝えたいことそのものだからだ。しかし①に意識が向く分、②はつい疎かになる実態がある。そこで、指

導にあたっては、伝えたい内容を確認・整理するとともに、「伝えてどうなればよいのか」「何のために伝えるのか」を確認し、「どうすれば選択・採用されるか」を意識的に検討することが大切になる。

そのための工夫のポイントの一つは、伝え方をよりわかりやすく、また効果的にしていくことである。しかし実はそれだけでは充分でない。

聞き手のニーズを分析すること

例えば生徒たちはポスターの意図をいろいろ工夫して伝えようとする。けれど聞き手の判断のポイントが例えば「教師でなく生徒の目を感じる学校像が表現されているもの」であったとしたら、そこに触れてアピールしなければ「確かに工夫されていますね」という評価は得ても選択・採用はされない。これがプレゼンテーションにおける「相手に応じる」ことなのだ。②の目的が達成されるためには、聞き手に対する検討を行い、何をこそ主張すべきか、意志決定のポイントを考えることが大切になる。

ただし、中学生ではこのことに気づき、工夫するところまでで充分だろうか。つまり説得力のある話ができることだけでなく、「説得力を増すために工夫できること」が指導のねらいになる。

その上で、小学校では子どもたちの発達をふまえて、小学校での「①伝えたいことを理解してもらえるように工夫して話すこと(伝えたいこと)」から、「②目的を達成するために工夫して伝えること(伝えたいこと×目的)」へ、さらに「③目的を達成するために相手の求めに対応して伝えること(伝えたいこと×目的×相手)」へと展開していくのがよいと考える。



プレゼンテーションについては、ビジネス書籍に多くの実戦的な手法が紹介されている。ここに挙げた二つのポイントを押さえつつ、全体の組み立てや効果的な資料の作り方など、具体的なコツをおさえた指導を開発していくことが大切だろう。

*プリブル・チャールズ『現代プレゼンテーション正攻法』ナカニシヤ出版

「作文」ではなく「書くこと」の力をつけるという発想で

東京都港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子



Q 私の教室では、原稿用紙を前にするとアレルギー反応を起こし、「嫌だ」「やりたくない」と言ってしまう作文嫌いの生徒が多くて困っています。普段から生徒が楽しんで取り組めるようないいアイデアはないでしょうか。

A 子どもたちは、いつでも何かひとつのことです。中学生は、めんどくさいことは大嫌いですからね。でも、なぜアレルギー反応を起こすのかという問いを立てて、真剣に考えることは必要です。

作文なんて嫌だと思っ背景には次のようなことがあります。

- ・何を書いているのかわからない。
- ・書いたことが見つかからない。
- ・書きたいことはあるがどう書いていいかわからない。

- ・書きたしがわからない。
- ・書いているうちに何を書きたいのかわからなくなってしまう。
- ・ぴったりの言葉や表現が思いつかない。
- ・めんどくさい。
- ・書いてよかったと思えない。

などなど。これを一つ一つに対策を立てていくのは可能です。

今回は、中学生特有の「めんどくさい」「つまんない」を解消する小さな「書く」の学習を紹介します。

「作文」ではなく「書くこと」の力をつけるという発想で

「作文」といえば原稿用紙。それは行事の後などに書かせられるもの。そして長い文章。確かに楽しい経験はしたが、別に書きたいことなどない、というマイナスのイメージが子どもたちには強いようです。

作文を書く力をつけるのは大切ですが、そのよつな「作品を作り上げる」という発想ではなく、「書くこと」の力をつけるという発想をしてください。そのよつな「書くこと」によって、長い文章を仕上げるのが目的のいわゆる「作品主義」を脱却できると思います。書くことは特別なことではないと思う子どもたちを育てたいものですね。

そのためにはいつでも書いていけるという環境を作る必要があります。以前、この教師力講座で紹介した授業記録(「国語教育相談室」No.56)が私の教室ではとても有効だと感じています。毎時間、必ず授業記録を

書いて、学んだことや課題や感想などを書いていく。この積み重ねは半年ほどたつと確実に書くことに対する抵抗感を少なくします。

日常的にそのような取り組みをするのと同時に、「コンバクトですぐにできる学習を今回は紹介したいと思います。」「書くこと」が楽しいと思える学習の一例です。

ウソ日記

これは私の所属している勉強会で共に学んでいる教師が考えた方法です。それを自分なりにアレンジして実践しています。

新出漢字を使って日記を書くという活動で、内容は童話「はれときどきぶた」(矢玉四郎・作、岩崎書店)

のうにウソでよいのです。とにかく、時間内にどれだけ多くの新出漢字を使えたかが鍵。多少は無理のある話の展開もOKです。ウソを書きなさいと言われて子どもたちは最初驚いていましたが、今では「ウソ日記」というと張り切って書くようになりまし。漢字のワークブックを持たせて書かせると便利です。

書き終わった後に作品を読んで発

使った新出漢字をここに改めて書きます。慣れないうちは全部書き終わってから、慣れてくると文章を書きながら書けるようになります。

時間内に何個書けたか個数を書きます。この時は10分とりました。

その日の日付と天気を書きます。

ウソ日記	氏名()
五月二十九日・雨	鉄声
	動揺
	凍らせた
	恐怖
	慌たたく
	銘柄
	飢え

今日の授業で学んだ新出漢字をここに書いていきます。慣れないうちは全部書き終わってから、慣れてくると文章を書きながら書けるようになります。

今日の授業で学んだ新出漢字をここに書いていきます。慣れないうちは全部書き終わってから、慣れてくると文章を書きながら書けるようになります。

今日の授業で学んだ新出漢字をここに書いていきます。慣れないうちは全部書き終わってから、慣れてくると文章を書きながら書けるようになります。

使った新出漢字には傍線を付けます。

多少文章におかしいところがあっても、気にしないようにします。



言葉の小劇場

表すると、聞き手は新出漢字を頭に浮かべながら聞けるようです。ウン日記を始めてから漢字力も付いたようで、まさに「一石二鳥の学習です。」

●「色あせる」身にしみる

上京してきた真央は荷物の整理をしていた。すると、アルバムなどが入っている段ボールの中から色あせた一冊の本が出てきた。昔、おばあちゃんからもらったものだ。その本をギュッと抱きしめると、温かさが身にしみた。

●「色あせる」

私の小学校の思い出は、毎日、毎日が色あざやかなものだったはずなのに、中学に入學し、日がたつにつれ、だんだんと色あせてしまっている。あんなに楽しく濃い日々だったのに…。記憶とは、儂いものである。

●「…よしもない」

二学期の始業式の朝、一年三組に転校生がやってきた。ずいぶん背が高く、先生から紹介されてもにこりもしない男子だったが、その後、野球部で僕とバッテリーを組むとは、もちろんその時は、知るよしもなかった。

言葉の小劇場

上に示したものは子どもたちが書いた「言葉の小劇場」です。これは語彙指導の一つとして取り組み始めたものですが、語彙力を身に付けると同時に書くことの楽しさも味わえる、こちらも「一石二鳥の学習です。」

言葉が身に付くというのは、辞書で意味調べをするだけで実現できるものではありません。どんな場面で使われる言葉なのかをわかり、実際に使っていてこそ身に付くものです。

「言葉の小劇場」は、教材文に出ている言葉を取り上げ、その言葉を使って百字程度でお話を作るという学習です。一つの言葉に対して10分もあればできます。フィクションであればできず。フィクションであればできず。フィクションであればできず。

ここで示した「色あせる」「身にしみる」「…よしもない」は、教科書教材一年「少年の日の思い出」に出ている言葉です。この作品の読みに入る前に、キーワードとなる言葉をいくつか拾って小劇場を作りな

いと指示しました。子どもたちは辞書を調べ、用例を参考にします。それでもわからないときは教師に尋ねます。教師は子どもたちから質問されたら、「例えばね」と言って想定できる場面を伝えます。いわば用例辞典のような役割ですね。私にとっ

ては、とても楽しい時間です。最初のうちは慣れない子どももいますが、書けた子どもの作品を読んでも紹介したり、印刷して読み合ったりすると、どんなふうに書けばいいのかがすぐにわかります。

書いた後に文章を読み合うことによって、自分では取り上げなかった言葉も意味や使い方がわかってきます。この学習は語彙獲得に大きな収穫をもたらしました。

書くことがめんどくさいと思っていた子どもも、いつの間にか書くようになっていました。思っていることが形になる楽しさを味わったのだと思います。

この学習は作品の読みを確かなものにするための一助ともなりました。文章の中に出てくる言葉を理解でき

真剣に取り組んでいました。

小さな「書く」という学習が読みを深めることにもなります。書かなければ先へ進めない学習でもありません。子どもたちのコメントをすぐに印

万葉集の歌に対するコメント

春過ぎて夏来るらし白栲の衣乾したり天の香具山

持統天皇

夏が来ちゃったのかあ

緑と白のコントラストが美しい

きっと空は真っ青だろうなあ

高いところから見下ろしてたの？

いい眺めだよ

女性の天皇だったのか

柿本人麻呂

東の野に炎の立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ

雄大な景色！

ナイスロケーション

夜更かしなの？早起きなの？

私もその景色見てみたい

そんな景色に出会えてラッキーでしたね

なんと地球的高い建物がない時代だ

刷して、みんなでさらにコメントを言い合うと大いに盛り上がりました。感想を書きなさいと言わなくてもいつのまにか感想を書いていたという学習です。さまざまに「書く」学習を通して、書くことへの抵抗をなくしていく。そのことも書く力を育むためには大事なことです。付箋を利用する学習はいろいろあります。「コンパクト」な学習を考

えるにはとても便利な道具です。幸いなことにいろいろな大きさの付箋があるので、学習によって大きさを変えたり少し長い文章やコメントも書けるようになります。原稿用紙を嫌がらないようにする

「コンパクト」をキーワードに

小さな「書く」学習は、特別に取り立ててやらなくてもいつでもできます。たとえば「読み」の授業にもそのチャンスが多くあります。次に示したのは「コメントで読む万葉集」という単元を実践したときのもので

万葉集の一首一首に、解説が書かれている資料を読みながら、子どもたちが付箋に「コメントをひと言だけ書いて貼っていく学習です。子どもたちは「○字以上書きなさい」と言われるのではなく、「○字以上書いてはいけません」という方が書く気

古典和歌教材化の可能性

1 はじめに

古典和歌は、第三学年の第四單元冒頭に「君待つと―万葉・古今・新古今―」という教材名で位置づけられており、万葉から九首、古今・新古今からそれぞれ四首ずつ教材として採られています。

ここでの学習は、和歌学習の系統でいえば、第二学年での近代短歌の学習、すなわち「短歌を味わう」や、資料「短歌十二首」の学習を受ける形になりますし、古典学習の系統でいえば、第一学年の「いろは歌」や「竹取物語」から始まった中学校古典学習の総仕上げという位置づけになります。さらに、ほとんどの生徒が

山梨学院短期大学教授
松野洋人

高校に進学するという状況を考えれば、高校一年の「国語総合」などにおける古典学習への橋渡しという点についても意識しておく必要があるだろうと思います。

2 教材化の可能性

(1) 教科書所載和歌を掲載順に

教科書のもつ性格上、教科書所載の和歌は、「よみ人しらず」の例外はありますが、その歌集における代表歌人の代表歌を選定するということにならざるをえません。また、中学三年の発達に合った歌、各歌集の歌風や技巧を反映している歌という制約も選歌の考慮条件になって

います。

そのようなフィルターを通して選定された十七首の和歌ですから、古典和歌学習の導入教材として極めて妥当なものなのです。したがって、教材の和歌について、一首ずつ順に「歌意」を確認させ、作者の「感動・心情」を想像させるとともに、読み手である生徒自身の「感想」をまとめさせるといった流れが、基本的な学習スタイルといってよいでしょう。

(2) 「詞書」を補足して

教材の和歌群は前項と同じ教科書所載和歌です。

古典和歌の指導における問題点の一つは、和歌の言葉をいくら丁寧に見解い

ても、生徒たちの心をなかなか揺さぶることができないということです。各歌が作られた背景には、それぞれさまざまなドラマがあるはずなのですが、教科書の情報だけではそれが見えてこないのです。

「題知らず」などの歌もありますが、ほとんどの歌には「詞書」というものが付いており、その歌がどのような状況の中で作られたのかをうかがい知ることができます。この「詞書」を手がかりに歌の作られた背景や状況を確認させることで、それぞれの歌の世界に深く入り込ませることができると思います。

(3) 新たな教材群を構成して

これは、まったく新しい教材ユニットを創案するという形です。この場合、まず問題となるのは教科書所載教材をどうするかということです。授業時数に余裕があれば、発展学習として授業時間内に扱い、余裕がなければ課外学習として生徒個々に取り組ませることになるでしょう。いずれにしても、「歌意」作者の思い」「自己の感想」などの欄を設けた学習シートを用意し、生徒が自学できるように条件を整えておく必要があります。

次に、教材ユニット例を二つ紹介しましょう。

(A) ある主題で教材群を構成する

「愛」「別れ・死」「季節感」「無常観」など切り口はさまざま考えられますが、例えば、万葉を「愛」で構成した場合、次のようなユニットも考えられます。

- ① プロローグ
「籠もよ み籠持ち」 雄略天皇1
- ② 片思い
「夏の野の繁みに咲ける」 大伴坂上郎女150
- ③ 待つ
「君待つと吾が恋ひをれば」 額田王488
「あしひきの山のしづくに」 大津皇子107
- ④ 姉と弟
「吾が背子を大和へ遣ると」 大伴皇女106
「二人行けど行き過ぎ難き」 大伴皇女106
「ももつたふ磐余の池に」 大津皇子416
- ⑤ 初々しく
「多摩川にさらす手作り」 東歌337
- ⑥ 夫婦、親子
「憶良らは今は罷らむ」 山上憶良337
「瓜食めば子ども思ほゆ」 山上憶良802
「銀も金も玉も」 山上憶良803

(B) あるテキストを丸ごと教材に

中学三年生に、質的にも量的にも合ったテキストは、それほど多くありませんが、万葉であれば、『万葉のうた』(文・大原富枝、画・岩崎ちひろ 童心社)がよいと思います。十二のユニットで構成されており、大原氏の解説文が秀逸です。指導時数にゆとりがなければ、いくつかのユニットに絞って扱うことも可能です。万葉では、『いにしえからのラブレター』(著・ryo、ヴィレッジブックス)も使えるかと思えます。現代語訳も独立したアンソロジーのようで、なかなか楽しい構成になっています。

これらを実践する際に留意すべきは、先に指摘した指導時数の問題以外に、テキストの準備の問題があります。公費で一学級分の冊数を購入し、国語科の備品として整備しておく必要があるのです。

おさええておきたことと 三題

鳥取大学教授 住川英明 すまがわ ひであき

筆の持ち方

適切な筆の持ち方を身につけるにあたっては、小学校低学年あるいは中学年の書写学習が大きな役割を担っているのは当然のことです。しかし、中学校に入學して最初に書写を学ぶときが、その学び直しの大きなチャンスであることも疑いの余地がありません。

毛筆書写についていえば、筆を①右に倒しすぎない、②手前に倒しすぎないということが筆の持ち方の要点です。「倒しすぎない」という持って回った言い方をしたのは、「筆を直立させる」こととの違いを指摘したいからです。

私は、筆管を少しだけ、右に倒し、かつ手前に倒していることが筆の持ち方としては自然なのだと考えています。そう

いなければ、終筆のとめ・はね・払いといった「筆圧」の変化によって成立する点画の細部を理解することはできません。加えて、一度墨液を含ませたら少なくとも一文字は書き続けることができなければ、毛筆を使う意味は半減してしまいます。

新しい学習指導要領に見られる書字動作の重視は、小学校高学年の事項に明記された「点画のつながり」という言葉に表れています。それは、一回きりの運筆によって字形を実現する技能が、日常の書字には不可欠であるという認識に基づいています。硬・毛の関連という観点から言えば、「一字一筆」は大切な原則です。特に、速書の場面に対応した行書の学習では、この筆脈を意識して学ぶことが重要です。この「一字一筆」の学びを保証するためには、筆の取扱いについての細やかな指導がまず求められます。

また、ホワイトボードの普及にとともに、硬筆としてマーカーがさかんに使われるようになりました。しかも、実際に使用する場面としては、書き手が立った姿勢で垂直の立面に書く場面が多いのです。これは学校生活のみならず、社会生活においても同じことがいえそうです。今後立って書写することは、話すことと

でなければ、穂先は点画の左側あるいは上側を通るという「穂先の動き」の原則が維持しにくい事態となります。

加えて、始筆の穂先の角度については、筆管の角度（指のかけ方）のほかに、腕の構え方も視野に入れなければなりません。肩に力が入ってわきの下を締めすぎているときは、とかく穂先が上を向いてしまうからです。

では、なぜ「直立」が唱えられてきたのでしょうか。それは右に倒しすぎている左方向への筆使いが、また手前に倒しすぎていけば始筆の穂先の角度が、大きな制約を受けるからです。たとえば、左払いの終筆で穂先をまとめることができなない場合は、右に倒れすぎであるといえますし、穂先の角度が上を向きがちで、結果として横画が太く、縦画が細くなりがちな場合は、手前に倒れすぎであると

関連して、情報伝達の場面でもり重要度が増していくものと考えられますが、その学び方にはいまだ定見がありません。現場の先生方の実践的な知恵を集めて、理論としてとりまとめていきたいところです。

「バランス」という言葉

書写の学習指導法を改善するための効果的な方法として、生徒に「バランス」という言葉を使わせない、もちろん教師も使わない、ということをお勧めしたいと思います。

試書の検討、規準の把握というプロセスは、授業の導入から展開にかけての大きな山場です。これは試書と参考文字（お手本）とを見比べるなどして、本時の目標を達成するには具体的にどこをどうすればいいのかわかる活動です。このとき、生徒は規準を自ら知ることができるとかどうか、また、教師はその発見を支援する手立てを用意することができるとかどうかが、学習指導上の大切なポイントということになります。

生徒が自分の試書を語るときによく口にするのが「バランスが悪い」という言葉です。漠然とした字形上の違和感を丸

いえます。「直立」はその対策として叫ばれてきたものでしょう。

左払いがなめらかに書けない、横画が多くなると文字が大きくなってしまふ、画間が均等に空けられないといったつまづきは、多くの場合、筆の持ち方に注目するだけで解消することが多いのです。

用具の取扱い

過日、朝日新聞の教育欄「きょういく特報部2009」に「毛筆の片付け、どうしてますか？」と題する記事が掲載されました。小学校の先生方が毛筆の後片付けに苦勞されている様子が報告され、その対策として「児童に空のペットボトルや空き瓶を持参させ、水を入れて机の上ですすぐ」という方法が紹介されました。すでに広く行われている方法ですが、こうした用具の取扱いがうまくいけば学習が滑らかに進み、次時への導入も楽になります。

また、現場の先生方とお話するときにもいつも私が強調していることは、「大筆、小筆のいずれにしても、一文字を書く間は墨継ぎをせずに書けるように、毛筆の状態を整えてあげてほしい」ということです。毛筆の柔らかさが確保されて

ごと表現できる点でもとても便利な言葉なのですが、ここでとどまっていたら規準が発見できません。このとき私は次のように問いかけます。「バランスという言葉は、『AとBとのバランス』というように、二つ以上のものの関係を示す言葉だね。あなたが言いたいのは、どこどここのバランスかな？」

よく聞いてみると、あるときは複数の画の長さの関係であったり、またあるときは複数の文字の大きさの関係であったりします。このようなやりとりを通して、生徒は点画や文字どうしの関係性についてはつきりと認識し、学習内容についての分析的な視点を得ることができまふ。さらに異なる題材を前にしたときに活用できる、字形を語るための具体的な言葉をもつことによつて、自ら学ぼうとする意欲を高めることができます。

教師が生徒の気づきを整理し、集約することができるとともに、まず教師自身が「バランス」の語に頼らないこと、それを日頃からさまざまな言葉によつて言い換える準備しておくことが肝要です。新しい学習指導要領における「理解することの重視も、案外そのあたりに実現への入口があるのかもしれない」。

学習意欲を高める毛筆指導 —書写を専門とされない先生方へ—

長崎県西彼杵郡時津町立時津中学校教諭 本田由人 ほんだよしと

1 実践の趣旨

書写指導をどのように行えばいいのか。それは、教師自身が、いわゆる「書の技術」を持つていることが重要ではあるが、「書の技術」を持つていなくても、意欲的に書写学習に取り組ませることはできる。

「名選手は必ずしも名監督にあらず」というプロ野球の言葉があるが、実際に、プロ野球の名監督と言われた人の中には、現役時代は一流選手ではなかった場合がある。では、なぜ名監督になり得たのか。それは、選手のことをよく見て、考え、工夫を凝らした指導を行ったからにはかない。

書写指導も同じである。高い技術を持った者がいい指導ができるかといえばそうでもない。生徒のことを考えて、常

2 指導の実際

①「永字八法」について

「永字八法」とは、漢字の「永」の字には、「点・横画・縦画・はね・右上がりの横画・左はらい・短い左はらい・右はらい」(※筆順通り)という、書に必要な八つの技法がすべて含まれているということを表した言葉である。

私が、中学一年生の最初の書写の授業の時に必ず書かせることは、この「永」の字である。しかも、半紙を一枚しか使わない。つまり、一発勝負なのである。

し、歓声があがる。この活動は、文字は違うが、一度に相互評価ができるという点で有効な学習活動である。

③ 筆ペンによる学習

選択教科としての国語において、私は迷うことなく「筆ペンによる学習」を行うことにしている。(筆ペンは各自で用意させる。)なぜならば、筆ペンに慣れることによって、実

社会での場面や(のし紙や芳名帳など)、生涯学習という観点で有効だからである。

なお、筆ペンにはさまざまな種類があるが、中字の毛筆タイプがいいように思う。(本体が約四百円、替カートリッジが約百五十円と、比較的手に入れやすい。)

なぜ毛筆タイプがお勧めなのかというと、毛筆タイプのほうが、本物の小筆を使ったときのように書けるからである。しかも、準備や後片付けの時間を必要としない。私は二十年来、この方法で指導している。内容は、祝儀・不祝儀袋の書き方を学んだり、自

その作品は年度末まで保管しておく。そして、最後の書写の授業の時に再び「永」の字を書かせ、最初の作品と比較する。(もちろん、半紙は一枚しか使わない。)すると、明らかに技能が上達しているのがわかる。

このようにすることによって、生徒たちは、「一年間きちんと取り組み、上手になるんだ。」と実感することができ、今まで苦手意識があった生徒も、その後の書写学習に意欲的に取り組むことができる。つまり、一年間かかるものの、「やればできる」ということを実感させることが重要なのである。

② いろは歌を書く

一年生の書写学習の中に、必ずと言っていいほど「平仮名の学習」がある。大筆で練習するのが当然だが、私は、あえて小筆での学習を中心に指導している。その学習とは、半紙を横置きにして、六文字八行(四十八文字)に折らせてから「いろは歌」を各自で書かせるということである。

しかし、ここからポイントである。生徒一人ひとりに一文字または二文字を割り当て、生徒は割り当てられた文字をひたすら練習し、最も良く書けた部分を

作の俳句を色紙に書いたりすることである。俳句を色紙に書く際には、五・七・五の三分分ち書きで取り組ませてきた。できれば、楷書を単純に並べるよりも、行書による連綿(文字を繋げて書くこと)を用いて書いた方が、より作品らしく見栄えがする。

③ 成果と課題

昔、書の基本は「永字八法」と言われてきたが、現在はほとんど取り組まれていないように思う。「新しい書写実践の試み」といいながら、あえてひと昔前の方法をとっているのは、この方法は普遍的なものであるからである。

書写学習において、最初から何か特別な方法、人とは違った、変わった方法をとるよりも、書の原点に戻り、基礎・基本をしっかり学習する。そして、それを身につけた上で、発展的な学習として筆ペンなどを用いて、生涯学習的な取り組みを行ったほうがよほどいいように思う。

最後に、筆ペンでの学習を行ったことで、筆ペンそのものに興味を示し、板書したことをノートにとる際に、単元名などを筆ペンで書く生徒が何人も現れるものだというのを付け加えておく。

ゑ	さ	け	る	つ	わ	と	い
ひ	き	ふ	の	ね	か	ち	ろ
も	ゆ	こ	お	な	よ	り	は
せ	め	え	く	ら	た	ぬ	に
す	み	て	や	む	れ	る	ほ
ん	し	あ	ま	う	そ	を	へ

▶一年〇組のいろは歌

大好評
絶賛
発売中!

光村

国語デジタル教科書 中学校版



もっと、国語が好きになる。

光村「国語デジタル教科書」は、教科書をそのまま拡大することで、全員で同じ画面に注目しながら学習できる指導用ソフトウェアです。みんなで文章について意見交換をしたり、動画を見てなるほど! と思ったり。教科書を立体的に活用することで、確実に国語の力が向上します。

(本ソフトウェアの使用にあたっては、プロジェクタ等の拡大提示装置が必要となります。)

「話す・聞く」編 (1~3年収録)

学校フリーライセンス
税込 52,500円(本体50,000円)

古典編 (1~3年収録)

学校フリーライセンス
税込 52,500円(本体50,000円)

※「学校フリーライセンス」とは、校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。

実践活用ガイド

ができました!

「国語デジタル教科書」を活用した実践事例をご紹介します。
体験版と併せていただいま無料配布中! 詳しくは下記ホームページまで!

光村図書出版株式会社
www.mitsumura-tosho.co.jp

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
TEL.03-3493-5741(デジタル教科書お客様窓口) FAX.03-3493-5483
E-mail:digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

教科書編集部便り

プレゼンテーションと教科書編集

今号の特集のキーワードである「プレゼンテーション presentation」。「プレゼン」という略称がすっかりおなじみになっていますが、その語源が何かご存知でしょうか。実はこの言葉、「贈る」という意味の英単語「present」から派生したものだそうです。どんなものを贈れば喜んでもらえるだろうかと、相手のことを思い浮かべながらプレゼントを選ぶように、相手にわかりやすいように情報を選び分け、見せ方を工夫して発表する。新学習指導要領で重視されている「相手意識」「目的意識」ということが、この語源からも読み取れるような気がします。

さて、現在編集部は、新版教科書編集の真っただ中にあります。教科書のあり方について、これまで新学習指導要領の内容に沿って議論を重ねてまいりましたが、いよいよ教材としてまとめ上げていく段階に

ています。

どんな学習活動を提示すれば、生徒は主体的に取り組みやすいだろうか。どんな紙面構成にすれば、生徒にとって学習しやすく、先生方にとって指導しやすくなるだろうか……。日々、そんな試行錯誤を繰り返しながら作業を進めています。使っていたく生徒や先生方のことを思い浮かべながら、内容を決め、見せ方を工夫するという点では、教科書編集も「プレゼン」に近いところがあるかもしれません。

新学習指導要領のもと、わたしたちが「プレゼン」する新しい教科書。生徒や先生方にしっかりと受け止めてもらえるよう、そして、「国語の力がつく」「学習のしかたがわかる」「国語って楽しい」と言ってもらえるよう、編集部一同、さらに邁進してまいります。

お知らせ

移行期間関連資料について

弊社ホームページ(光村チャンネル)に、新学習指導要領に対応した移行期間関連資料が掲載されています。ぜひご活用ください。

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/Data/ikou/>

■国語

移行措置期間における年間指導計画資料の作成にあたって	移行措置期間に、どのようにして年間指導計画を立てたらよいか、そのポイントを示した資料です。
単元系統一覧表	現行の単元系統一覧表に、新規で加わった項目を赤字で示しました。
指導事項配列表	現行の指導事項配列表に、新規で加わった項目を赤字で示しました。
学習指導要領新旧対照表	新旧の学習指導要領を並べて表示し、変更された部分や、新規で加わった点をわかりやすく示しました。
年間指導計画	現行教科書の単元・教材について、時数や扱い方が変わるところをわかりやすく示した年間指導計画資料です。

■書写

移行措置資料	年間指導計画作成の目安と、第三学年の新学習指導要領対応新教材を掲載しています。
--------	---